

平成 29 年度 第 2 回伊勢市産業支援センター運営協議会 議事録

1 日 時：平成 30 年 2 月 19 日（金）14：00～15：30

2 場 所：伊勢市産業支援センター 研修室

3 出席者：委員 13 名

事務局 商工労政課：課長、南係長、西村

産業支援センター：土屋理事、澤村センター長、

中村事業責任者、駒田創業コーディネーター

4 欠席者：2 名

5 概 要：内容は以下のとおり。

議題

- (1) 平成 29 年度事業経過報告について
- (2) 平成 30 年度事業計画（案）について
- (3) 伊勢市より平成 29 年度事業報告

○主な意見等

- ・ 平成 30 年度についても平成 29 年度と同様の事業を行うのか。
また実施する上で予算など変更はあるのか。
- 来年度も同じ事業を行う予定、予算の増額を行う予定のものもある。
- ・ 三重県版経営向上計画実施支援補助金について、どのような人でどのような業種で具体的にどのような費用が対象となるのか。
- 例えばトイレなどの設備など細かな所をサービスの向上や顧客の増加など経営の向上に繋がるものについて、事業所の方で計画を立てていただき、その計画が三重県の方で認められたものに対し、補助を行うというもの。
- ・ 飲食店の水周りや理美容店のスロープなどもあり、とてもいい話であると思う。
伊勢市創業移転促進事業補助金について、伊勢市内から伊勢市内への移転でも対象となるのか。
- 伊勢市内から伊勢市内への移転は対象となりません。
- ・ 例えば鳥羽から伊勢市は対象になるということですか。
- その通りです。
- ・ この補助金については、伊勢市産業支援センターとタイアップしてやっていてもいい事業なのではないか。
- 伊勢市産業支援センターとは、事業計画書作成において、創業コーディネーターとともにブラッシュアップを行っている。また、申請を行う上で必要な意見書の作成についてもお願いしている。
- ・ この補助金が市単独の補助金であるならば提案があるが、起業家支援室を外に出るときも補助をしてほしい。起業家支援室に入ってきた人のメリットとして、そのような補助があってもいい

いのではないかと思う。そういうものもないと起業家支援室に入ってくるメリットとはならないのではないか。もう一つは、起業家支援室は伊勢に他地域から創業したいという人を集めるところだと思う。この補助金を見直す際には伊勢市産業支援センターを重視した補助金制度を構築して行ってほしい。伊勢市産業支援センターでは横輪地域と御園地域で新ビジネス研究会を行っているとの事だが、地域の選定をどのようにして行ったのか。

→もともとの伊勢市というのは、伊勢商工会議所、伊勢市産業支援センターと距離的にも近いということで、繋がりも深いですが少しは離れたところについてはなかなか接点がない、また地域の活性化など模索をしている地域について情報を集め選定をしている。

・そのような地域の方たちは伊勢市産業支援センターの活動についてわからないと思う。先ほどの起業家支援室などへ誘導するような仕組みを作る一つのきっかけとなって良いかと思う。

宇治山田商業高校への就労支援については、良いと思うが、企業訪問数が1学年5社は少ないのではないか。3年間の長期的な計画を立てないと伊勢市にたくさんの企業があるのにもったいない。是非拡大して頂きたい。

・日本モッキと三重大学で共同研究を考えているところだが、三重大学が50万円負担し共同開発を行う企業を募集している。三重大学としても、産業発展に向けて何か力となれればと思う。

→宇治山田商業高校の話があったが、昨年、伊勢工業高校で開催させて頂いた出前授業の方が好評で宇治山田商業高校の方でも是非してほしいとのことだったので今年は宇治山田商業の方でも開催したところである。企業の選定については民間サイドの立場に立ち、学校とも協力できたらと思う。

・水産高校に関わりがあるが、生徒は溶接など船の製造の技術もある。生徒は皆就職で名古屋の方へ行ってしまう。伊勢などで就職があれば、自宅から通うことができるし、地域振興にもなる。市内の学校だけでなく、市外の学校にも就労の支援を行って頂きたい。

・女性企業セミナーで創業された人はいるのか。

→女性起業セミナーについては一昨年に始めたが今年はパワーアップしている。またセミナー参加者に起業家支援室等に入ってもらってもいる。

・全国的な連携はあるのか。

→全国的な連携というは今のところないが日本製作金融公庫とも連携をとりながら、受講者にどのようなニーズが講師の先生の紹介についても行ってもらっている。特にそのセミナーについては、講師の先生からスタッフまですべて女性であり、女性の方が相談しやすい環境をとということでセミナーを開催している。全国的な連携というのも考えながらやっていきたい。

・昨年度、出前授業をして頂いたが企業が20社来ていただいた。一つの高校で限られた時間の中で話をしていくわけだが一度に20社となると今いるブースの企業もわからないような状態となり、今年度については、企業数を少なくし、ゆったりと企業説明会をしていただいた。

三重県の教育委員会では会場を貸しきり、南勢地域の各高校が集まり、中学生に対して学校の紹介を行った。はじめに、各高校が全員の前で順番に学校説明をし、その後、気になった高校のブースへ行っていただくといった方法を取った。もし伊勢市産業支援センターでもこれと似た方法で学生や親に対しての説明会等が開催できれば良いのではないか。

・補助金申請が伸びた理由は？

→伊勢市産業支援センターのPRチラシを全戸配付するなど広報に注力したことが理由として挙げられる。支援員による発掘型の支援を加えたことが新たな理由である。

・創業支援員が3人から2人へ変更となったが、支援員が1人少なくなったことによる影響はあるのか。

→昨年度まで訪問数が飽和したような状態であり、今年度は新たに専門のアドバイザーを配置し、より専門的な助言を行うなど、現象による影響はなく、むしろ補助金等の実績はあがっている。

・起業家支援室は産業支援センターに様々な業種の方と知り合うことができ、営業にはとてもいい場所であるので、もう少し入居者が増えればと思う。

・伝統工芸が増えているが、新しい支援もいいが今あるものを続けていく支援をお願いしたい。

・新たに創業された人はサービス業が多い。ものづくり産業でも新しく創業される人が出てきてほしい。なんとか若い人を伊勢に残っていただきたい。今後とも補助金のアドバイスを継続していけばと思う。

・鳥羽、志摩、伊勢として産業を見ていかないといけない。伊勢以外の航行でもすばらしい学校があるので伊勢以外で企業説明会の場を作っていたらと思う。

・企業の話をしっかり聞き、その企業の長所を見つけ、長所をどのように伸ばしてやるかを考えてほしい。

・三重大学の卒業生を対象に三重へ帰ってくるような施策を考えている。産業支援センターとも連携しながらやっていきたい。